

# 令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【河合小学校】

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	「学習指導要領の領域等」において各学年の課題、また、「設問別回答類型調査結果」より個人差が大きいことから個別に必要な支援を講じていく必要を把握することができた。「スクールダッシュボード」等、個別に蓄積されたデータを効果的に活かしていきたい。そこで、該当学年の学習内容の定着はもちろん、系統性をもった指導方法(2年以上の教科担任制)の実施や、前年度の学習内容の定着(朝学習の時間・長期休暇・単元学習前に既習のふりかえり)を設け、基本的な計算等の更なる反復・定着・習熟に取り組む。
思考・判断・表現	国語の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」について、各学年共通の課題がみられた。そこで、思考・判断・表現する力(プレゼン力)の向上のために、①思考ツールを活用した授業の改善を行う。②伝え合いの機会を増やし、様々な視点からの考察の仕方(書き方)を学ぶ場を設定する。③「なぜそうなったのか」など根拠をまとめる力をつける授業を設定する⇒説明できる力を養うを増やす。④資料の読み取りや資料との関連付けを個人で行ったり、集団で行ったりする場(記述・発表)を設定し、全体的に底上げを行う。
主体的に学習に取り組む態度	5・6年生の「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」「学習した内容について、分かった点や、よく分らなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」の質問項目において、肯定的な回答の割合をどちらの学年も90%以上を維持・向上できるよう、「学びのポイント(じ・し・ゃ・く)」を意識した授業改善に取り組み、1年生から4年生においても、ICTを活用した振り返りの実施や記録の蓄積を図り、主体的に学習に取り組む態度を育てていきたい。

① 目標・策		
	目標	策
知識・技能	R5年度さいたま市学習状況調査の国語の「知識・技能」に関わる領域において、R4年度の自校の結果より2pt向上させる。	⇒ 「ドリルパーク」や「スタディサプリ」を活用し、児童の学習履歴を確認しながら、個別に学習課題を立て、漢字や基本的な計算等の反復・定着・習熟に取り組む。
思考・判断・表現	R5年度さいたま市学習状況調査の国語・算数において「思考・判断・表現」をR4年度の自校結果より2pt上げる。	⇒ 発達段階に応じて図やPowerPoint等のプレゼンテーションソフトを活用しながら、自身の考えを視覚的にまとめ、表現できるようにする。また、作成した資料は「オクリンク」等を活用して児童が相互評価を行えるようにする。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度さいたま市学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合を90%以上にする。	⇒ すべての授業において、学習のめあて(ゴール)を明確にし、児童が見直しをもって学習活動に取り組めるようにする。その際、自力解決と振り返りの時間を十分に確保する。

<小6・中3>(4月~5月)

⑤ 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	R5年度さいたま市学習状況調査の国語の「知識・技能」に関わる領域において、R4年度の自校の結果より、3年(国語×算数△)・4年(国語◎算数△)・5年(国語△算数△)・4年(国語△算数×)であった。 ※④さいたま市学習状況調査結果・分析の数値より朝学習の時間等に「ドリルパーク」や「スタディサプリ」を活用し、漢字や基本的な計算等の反復・定着・習熟に取り組む機会を増やすことができた。	B
思考・判断・表現	R5年度さいたま市学習状況調査の国語・算数において「思考・判断・表現」をR4年度の自校結果より4年(国語-0.2pt 算数+0.9pt)・5年(国語-2.1pt 算数-0.5pt)・6年(国語-2.5pt 算数-2.3pt)であった。	C
主体的に学習に取り組む態度	さいたま市学習状況調査では、「学習した内容について、分かった点や、よく分らなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」の質問項目で、肯定的な回答の割合が5年(90.9%)・6年(100%)と市回答割合より高い傾向がみられ、目標を達成することができた。	A

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

② 全国学力・学習状況調査結果・分析	
知識・技能	R5年度全国学力・学習状況調査の「知識・技能」において、R4年度の自校の結果と比較し、国語-7.2pt、算数+0.5ptであった。国語の「敬語の使い方」において課題がみられた。日常よく使われる敬語についての理解を深める活動に取り組みたい。
思考・判断・表現	算数の「図形」領域において課題がみられた。特に、「高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大きさを判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる」という問題に対し、記述できない児童が多数いた。考えたり説明したりする活動だけでなく、記述する活動(内容)も重視していきたい。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度全国学力・学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目の、肯定的な回答の割合は96.4%で目標値に達した。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④ さいたま市学習状況調査結果・分析 ※令和5年度のさいたま市学習状況調査結果は参考値扱いとなります。			
小3	R5年度さいたま市学習状況調査「知識・技能」において、R4年度調査より国語-1.7pt、算数+1.0ptであった。国語の「言葉の特徴や使い方に係る事項」、算数では、「数と計算」「図形」の領域に課題があった。 学びに向かう力等では、国語・算数・理科・社会とも肯定的な回答の割合が78%(4教科の平均)と高い傾向がみられた。	小4	R5年度さいたま市学習状況調査「知識・技能」において、R4年度調査より国語+5.4pt、算数+0.2ptであった。国語の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」、算数の「数と計算」「変化と関係」「データの活用」の領域に課題があった。 学びに向かう力等では、国語・算数・理科・社会とも肯定的な回答の割合が85%(4教科の平均)と高い傾向がみられた。
小5	R5年度さいたま市学習状況調査「知識・技能」において、R4年度調査より国語+0.1pt、算数+1.2pt、社会-2.5、理科+4であった。国語の「言葉の特徴や使い方に係る事項」「話すこと・聞くこと」「書くこと」、算数の「図形」「データの活用」、社会の「地理的環境と人々の生活」「現代社会の仕組みや働きと人々」、理科では、「地球」を柱とする領域に課題があった。 学びに向かう力等では、国語・算数・理科・社会とも肯定的な回答の割合が84%(4教科の平均)と高い傾向がみられた。	小6	R5年度さいたま市学習状況調査「知識・技能」において、R4年度調査より国語+0.9pt、算数-3.7pt、社会-3.7、理科-4.2であった。国語の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」、算数の「数と計算」「図形」「変化と関係」「データの活用」、社会の「地理的環境と人々の生活」「現代社会の仕組みや働きと人々」「歴史と人々の生活」、理科の「エネルギー」「地球」を柱とする領域に課題があった。 学びに向かう力等では、国語・算数・理科・社会とも肯定的な回答の割合が69%(4教科の平均)であった。

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
	目標	策
知識・技能	変更なし	⇒ 全国学力・学習状況調査の結果から、敬語のつかい方への理解に課題がみられたため、習得した語句を生活の場面で実際に使う機会を多く設定する。
思考・判断・表現	変更なし	⇒ 変更なし
主体的に学習に取り組む態度	さいたま市学習状況調査では、「学習した内容について、分かった点や、よく分らなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」を加えた質問項目で、肯定的な回答の割合を90%以上にする。	⇒ 毎時間の学習において、個々の児童に教師等のフィードバックを行い、児童各自の学習改善へとつなげる。